

# 羊齒類ノ Gametophyte ニ關スル研究 (其二十)

とらのをしだ屬及ビソノ近似屬羊齒ノ原葉體ニ就イテ

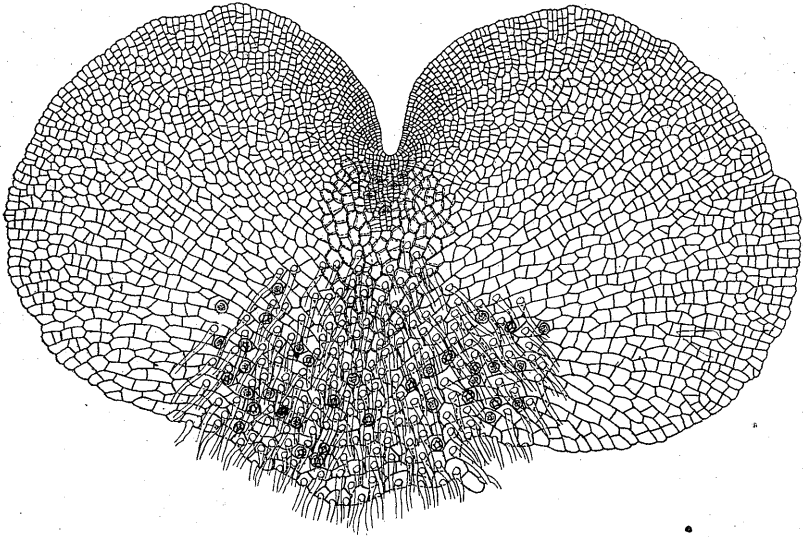
百 瀨 靜 男

S. MOMOSE: Studies on the Gametophyte of Ferns (XX).

On the Prothallium of some Species of *Asplenium* and its allied Genera.

1) **ちやせんしだ** *Asplenium Trichomanes* L., Sp. Pl. II, p. 1080 (1753).

本種ハ殆ソド全世界ニ亘ツテ廣ク分布スル羊齒デ、本邦ニ於テハ北海道・本州・四國・九州及ビ臺灣ニ産スル。材料ハ伊豆産ノモノヲ使用シタ。

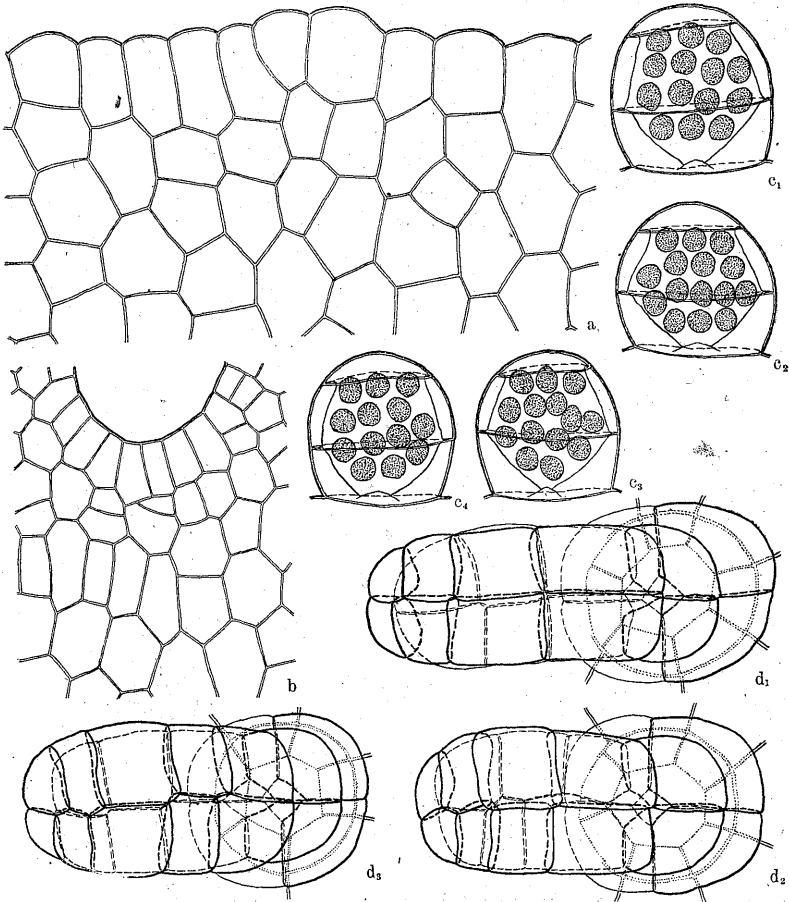


第 1 圖 ちやせんしだノ原葉體

Prothallium of *Asplenium Trichomanes*. (×20).

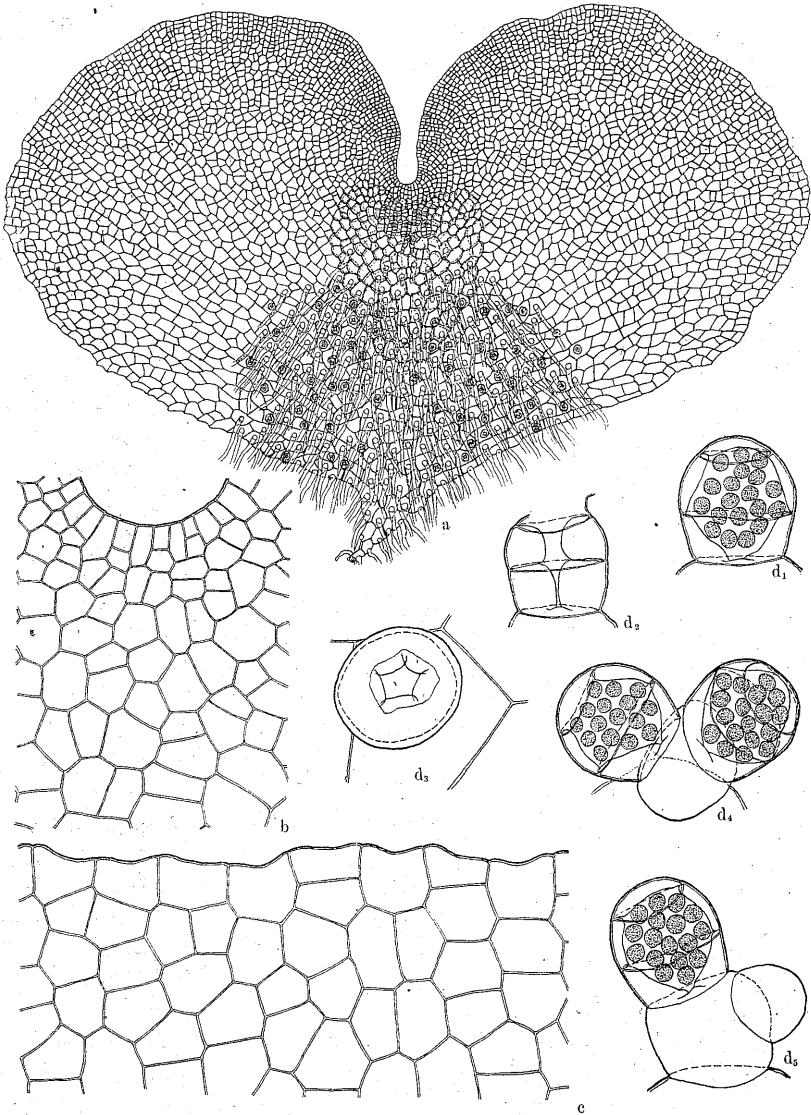
原葉體ハ心臟形ニシテ頂部中央ハ稍々深ク彎入シ、兩翼片ノ内側邊ハ生長點ノ上方ニ於テ平行ナルカ或ハ開イテ居ル。下部ハ丸ク狹窄シテ原絲體ニ移行スル。原絲體ハ2-4個ノ方形ノ細胞ヨリ成リ、基原細胞ハ圓柱狀ニ胞子外殼ヨリ突出スル。兩翼ハ蝶翼狀ニ僅カニ斜上シ、翼縁ハ不整波狀ヲナス。翼細胞ハ不規則ナル等方多角形デ兩面ニ膨出シ、分裂列ハ稍々明瞭デアアル。翼縁ノ細胞ハ

長形ニナル傾向ガアリ、側方ニ突出シ、ソノ縁側ハ彎出シテ凸形ヲナス。假根ハ淡褐色ニシテ原葉體ノ底部ヨリ中褥ノ中部ニ亙リ翼部ニマデ擴ツテ廣ク生ズル。中褥ハ下面中途比較の上方ヨリ始マリ頂部生長點ニ達スル倒卵形ノ褥ヲナス、小形ニシテ、3-4層ノ丸味ノアル等方形ノ細胞ヨリ成ル。藏卵器ハ中褥ノ中央上部生長點ニ近ク比較の少數個群生シ、頸部ハ瘦セテ細長ク、4系列ヲナス頸細胞ハ前列6-7個、後列4個ノ細胞ヨリ成リ、ソノ最下位ノモノハ特ニ大



第2圖 ちやせんしだ (*A. Trichomanes*)

- a. a part of margin ( $\times 160$ ), b. growing point ( $\times 160$ ),  
 c. antheridia ( $\times 240$ ), d. archegonia ( $\times 240$ ).



第3圖 とらのをしだ (*Asplenium incisum*)

a. adult prothallium (×20), b. growing point (×160),  
c. a part of margin (×160), d. antheridia, d<sub>1</sub>-d<sub>5</sub> with a desk cell (×240).

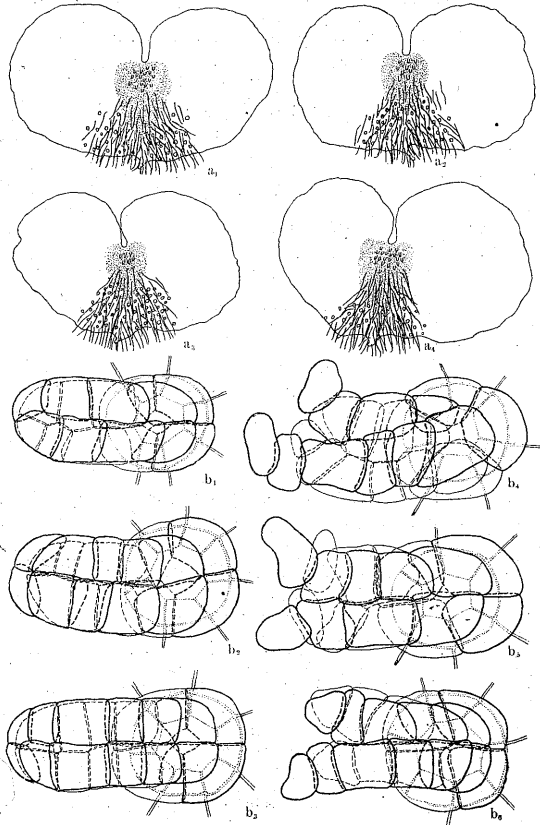
形ニシテ頸部ノ座ヲナス。藏精器ハ假根ニ伍シテ中褥ノ下端以下ニ翼部ニマデ亘ツテ生ジ。側面觀ハ截圓形デ直径 75-90 $\mu$  アリ。底細胞ハ環細胞ト等幅 等高ニシテソノ上膜ハ陷沒シテ底膜ニマデ達スル。

本種ハ *Asplenium* L. ノ基準種デアル故本種ノ原葉體ヲモツテ *Asplenium* ノ原葉體ノ基準型ヲ規定スルコトニスル。

2) とらのをしだ *Asplenium incisum* THUNBERG in Trans. Linn. Soc. II, p. 342 (1794).

本種ハ北海道・本州・四國・九州・朝鮮・支那・滿洲・シベリアニ亘ツテ廣ク分布スル。材料ハ相模國神武寺附近産ノモノヲ使用シ外ニ東京市内湯島天神境内産ノモノニツイテモ参照シタ。

原葉體ハ横廣キ心臟形ニシテ、頂部中央ハ狭ク深ク急ニ彎入シ、兩翼片ノ内側邊ハ生長點ノ上方ニ於テ平行ナルカ或ハ相接近シテ居ル。下部ハ丸ク狭窄シテ原絲體ニ移行スル。原絲體ハ 2-3 個ノ細胞ヨリ成リ、基原細胞ハ圓柱狀ニ胞子外殼ヨリ突出スル。兩翼ハ蝶翼狀ニ斜上シ、翼緣ハ微カニ不整波狀ヲナス。翼細胞ハ不規則ナル等方多角形ニシテ兩面ニ膨出シ、分裂列ハ稍々明瞭デアル。翼緣ノ細胞ハ等方形ニシテ、側方ニ突出スルコトナク緣ハ平滑ニシテ、ソノ緣側ハ微カニ彎入シテ凹形ヲナス。假根ハ一般ニ淡褐色ヲ呈シ、中



第 4 圖 とらのをしだ (*A. incisum*)  
a. general aspect ( $\times 5$ ), b. archegonia ( $\times 200$ ).

褥ノ中部以下ニ翼部ニマデ擴ツテ廣ク生ズル。中褥ハ下面中途ヨリ頂部生長點ニ達スル倒卵形褥ヲナシ。比較的小形ニシテ、3-4層ノ丸味ノアル等方形ノ細胞ヨリ成ル。藏卵器ハ中軸ニ集ツテ生長點ニ近ク中褥ノ中部以上ニ群生シ。頸部ハ瘦セテ細長ク、4系列ヲナス頸細胞ハ前列6-7個稀ニ5個、後列4-5個ノ細胞ヨリ成リ、ソノ最下位ノモノハ特ニ大形ニシテ頸部ノ座ヲナス。藏精器ハ假根ニ伍シテ原葉體ノ下部ヨリ中褥ノ下部ニマデ亙ツテ生ジ、側面觀ハ截圓形又ハ截橢圓形ニシテ直径50-70 $\mu$ アリ、底細胞ハ環細胞ト等幅・等高ニシテソノ上膜ハ掃鉢狀ニ陥没シテ底膜ニマデ達スル。時ニハ1個ノ臺細胞ヲ有シ、ソノ上ニ1-3個ノ藏精器ヲ着ケルコトガアル。

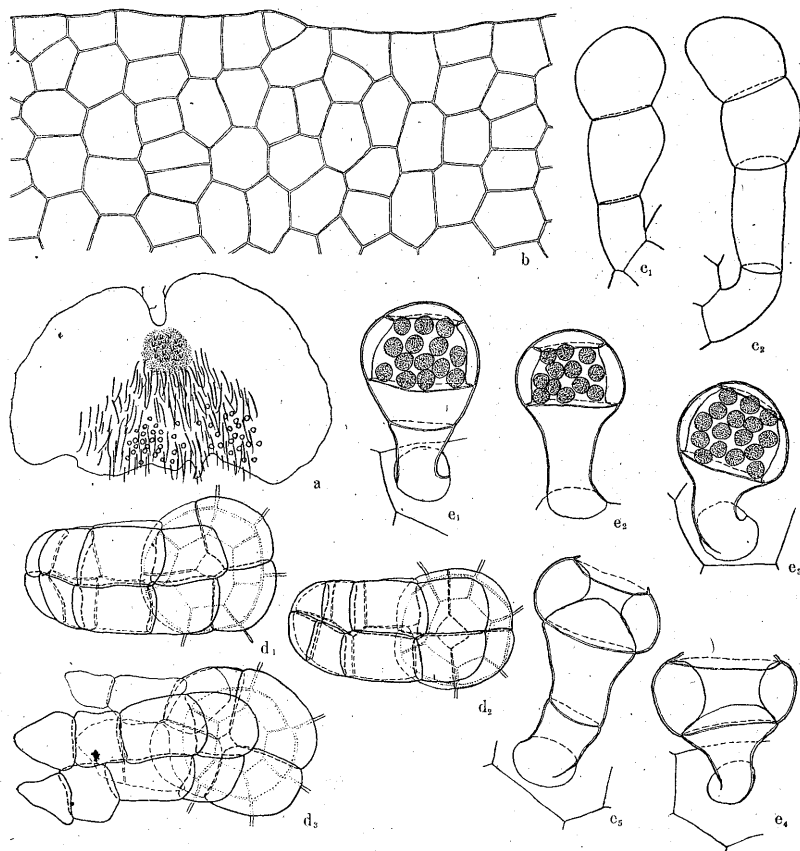
本種ノ原葉體ハ前記ちやせんしだノソレト比較スルニ概形・生育狀態・翼及ビ翼細胞ノ形狀・假根ノ分布及ビ性狀・中褥ノ狀態・藏卵器及ビ藏精器ノ形狀等殆ンド皆テノ點ニ於テヨク類似スルガ本種ニ於テハ翼緣ノ細胞ハ等方形ニシテ殆ンド側方ニ突出スルコトナク縁ハ平滑ニシテ、ソノ縁側ハ彎入シテ凹形ヲナスコト及ビ藏卵器ノ頸部ハ比較的小ナルコトニヨツテ區別サレル。

*Asplenium* 及ビソノ近似群ニ於テハ翼緣ノ細胞ハ一般ニ側方ニ突出スルコトナク縁ハ平滑ナルノガ普通デアツテちやせんしだノ如ク側方ニ突出スルコトハ寧ろ特例ニ屬スル。コノ點ニ於テ此等兩種ノ原葉體ノ間ニハ型ノ區別ガ考ヘラレナイデモナイガ然シ他ノ各點ニ於テ極メテヨク類似シテ居ル故現在ノトロ同一型トシテ取扱ツテオク。

3) **かみがもした** *Asplenium oligophlebium* BAKER in Gard. Chr. n. s. XIV, p. 494 (1880).

本種ハ本州(南部)・四國・九州・琉球ニ亙ツテ分布スル。材料ハ小石川植物園ニ栽培セルモノヲ使用シタ。

原葉體ハ横廣キ不規則ナル形ノ心臓形デ下側方ニ強ク張ツテ概形殆ンド半圓形ヲナスコトガアル。頂部中央ハ淺ク彎入シ、兩翼片ノ内側邊ハ生長點ノ上方ニ於テ平行ナルカ或ハ開イテ居ル。下部ハ丸ク急ニ狹窄シテ原絲體ニ移行スルカ或ハ截形ヲナス。原絲體ハ2-4個ノ方形ノ細胞ヨリ成リ、基原細胞ハ圓柱狀ニ孢子外殼ヨリ突出スル。兩翼ハ殆ンド平直ニ擴ガリ、下側方ニ張り、翼緣ハ微カニ波狀ヲナス。翼細胞ハ不規則ナル等方多角形デ兩面ニ彎出シ、分裂列ハ稍々明瞭デアアル。翼緣ノ細胞ハ等方形デ側方ニ突出スルコトナク縁ハ平滑ニシテ、ソノ縁側ハ平坦デアアル。生長點附近ノ縁部ニハ少數ノ多細胞毛ヲ生ズル。多細胞毛ハ3-5個ノ細胞列ヨリ成リ、内ハ殆ンド空ニシテ最上位ノ細胞ノミハ



第5圖 かみがもしだ (*Asplenium oligophlebium*)

- a. general aspect (×6), b. a part of margin (×160),
- c. multicellular hairs at margin (×160),
- d. archegonia (×240), e. antheridia (×240).

他ヨリ強ク膨脹シ内ニ多量ノ顆粒質ノ内容ヲ含ム。假根ハ褐色ニシテ中褥ノ下端以下ニ廣ク翼部ニマデ擴ツテ生ズル。中褥ハ下面上部生長點ニ近ク殆ンド圓形ノ褥トシテ生ズルモ極メテ小形ニシテソノ發達モ亦顯著ナラズ、2-3層ノ丸味ノアル等方形ノ細胞ヨリ成ル。藏卵器ハ中褥上殆ンド全面ニ生ジ比較的多數デアル。ソノ頸部ハ瘦セテ細長ク、4系列ヲナス頸細胞ハ前列5個稀ニ6個、後列3-4個ノ細胞ヨリ成リ、ソノ最下位ノモノハ特ニ大形ニシテ頸部ノ座ヲナス。藏精器ハ假根ニ伍シテ原葉體ノ下部ニ側方ニマデ擴ツテ生ジ、上面觀ハ圓

形ニシテ直径 60-80 $\mu$ 、側面觀ハ極メテ特徴アル頭狀ニシテ蓋細胞及ビ環細胞ハ普通形ナルモ底細胞ハ著シク長ク伸ビテ棍棒狀ノ柄ヲナシ、普通下方ニ彎曲スルタメ藏精器ハ何レモ下方ニ垂頭スル。底細胞ハ横膜ニヨツテ下位ノ柄細胞トノ二細胞ニナルコトモアル。何レノ場合ニ於テモノノ上膜ハ常ニ平坦ニシテ陥没スルコトガナイ。

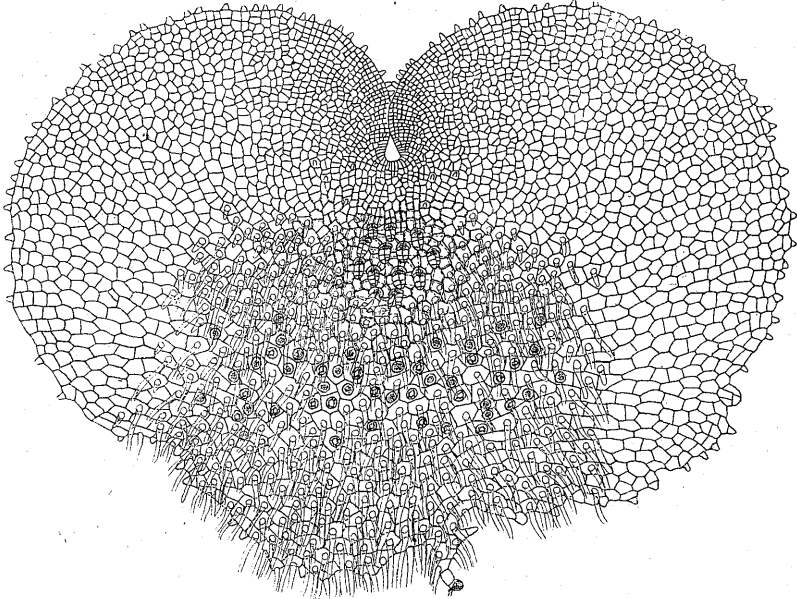
材料ガ不充分デアツタ、メ満足スベキ觀察ハ出來ナカツタガ筆者ノ觀察セル限りニ於テ本種ノ原葉體ハ前記ノモノト比較スルニ甚ダ特異ナモノデアアル。即チ 1) 翼細胞ノ形狀、2) 翼縁ノ細胞ノ形狀、3) 假根ノ分布及ビ性狀、4) 中褥ガ小形ナルコト、5) 藏卵器ノ形狀等ニ於テハ特ニとらのをしだニ類似シテ居ルノデアアルガ 1) 概形、2) 頂部中央ハ著シク淺ク彎入スルコト、3) 生長點附近ニハ多細胞毛ヲ生ズルコト、4) 中褥ハ生長點ニ近ク生ジ殆ンド圓形ニシテ顯著デナイコト、5) 藏卵器ハ中褥ノ全面ニ互ツテ生ズルコト、6) 藏精器ノ形狀等ニ於テ極メテ明瞭ニ區別サレル。以上ノ内特ニ多細胞毛ヲ生ズルコト及ビ藏精器ノ形狀ハ本種ノ原葉體ノ著シキ標徴デアアル。

4) ひのきしだ *Asplenium prolongatum* HOOKER, 2. Cent. Ferns t. 42 (1860).

本種ハ 本州南部・四國・九州・朝鮮・臺灣・南支那ヨリ印度・セイロン・フィジー・ニューカレドニア・アフリカニ互ツテ廣ク分布スル。材料ハ小石川植物園ニ栽培セルモノヲ使用シタ。

原葉體ハ心臟形ニシテ頂部中央ハ淺ク狭ク彎入シ、兩翼片ノ内側邊ハ生長點ノ上方ニ於テ平行ナルカ或ハ相接近シテ居ル。下部ハ丸ク或ハ楔形ヲナシテ急ニ狭窄シテ原絲體ニ移行スル。原絲體ハ 2-4 個ノ細胞ヨリ成リ、基原細胞ハ圓柱狀ニ胞子外殻ヨリ突出スル。兩翼ハ殆ンド平直ニ擴リ、翼縁ハ殆ンド全縁ナルカ或ハ微カニ波狀ヲナス。翼細胞ハ不規則ナル等方多角形ニシテ兩面ニ膨出シ、分裂列ハ不明瞭デアアル。翼縁ノ細胞ハ等方形デ、側方ニ突出スルコトナク縁ハ平滑ニシテ、ソノ縁側ハ平坦デアアル。翼縁及ビ生長點附近ノ兩面ニハ乳頭狀突起ヲ散生スル。乳頭狀突起ハ長サ 50-60 $\mu$ 、根元幅 45-50 $\mu$  アリ、帽ヲ分泌スルコトナク内ニハ翼細胞ト 同形・同大ノ葉綠粒其他ノ細胞内容ヲ含ミ性質上ノ分化ガ見ラレナイ。假根ハ無色透明ニシテ原葉體ノ下半部ニ擴リ翼部ニマデ互ツテ生ジ、上方ハ中褥ヲ抱クガ如ク生ジテ藏卵器ト混生セズ。中褥ハ下面ノ略々中央ヨリ上方ニ生ジ、著シク小形ニシテ顯著ナラズ。頂部生長點ニマデ達セズシテ中途ニ終リ、倒卵形ニシテ輪廓ハ不明瞭ニシテ、2-3 層ノ丸味ノアル

細胞ヨリ成ル。藏卵器ハ中褥ノ中央ノ稍々顯著ニナル部分ノ殆ソド全面ニ互リ比較的多數個生ジ、頸部ハ比較の太ク大ニシテ下方ニ彎曲シ、4 系列ヲナス頸細胞ハ前列 5-6 個、後列 4-5 個ノ細胞ヨリ成リ、ソノ最下位ノモノハ特ニ大形ニシテ頸部ノ座ヲナス。藏精器ハ假根ニ伍シテ中褥ノ下端ニ近ク横ニ擴ツテ生ジ、側面觀ハ截橢圓形ニシテ直徑 85-100 $\mu$  アリ、底細胞ハ環細胞ト等幅・等高ナルカ或ハコレヨリ低ク、ソノ上膜ハ常ニ陥没シテ底膜ニマデ達スル。

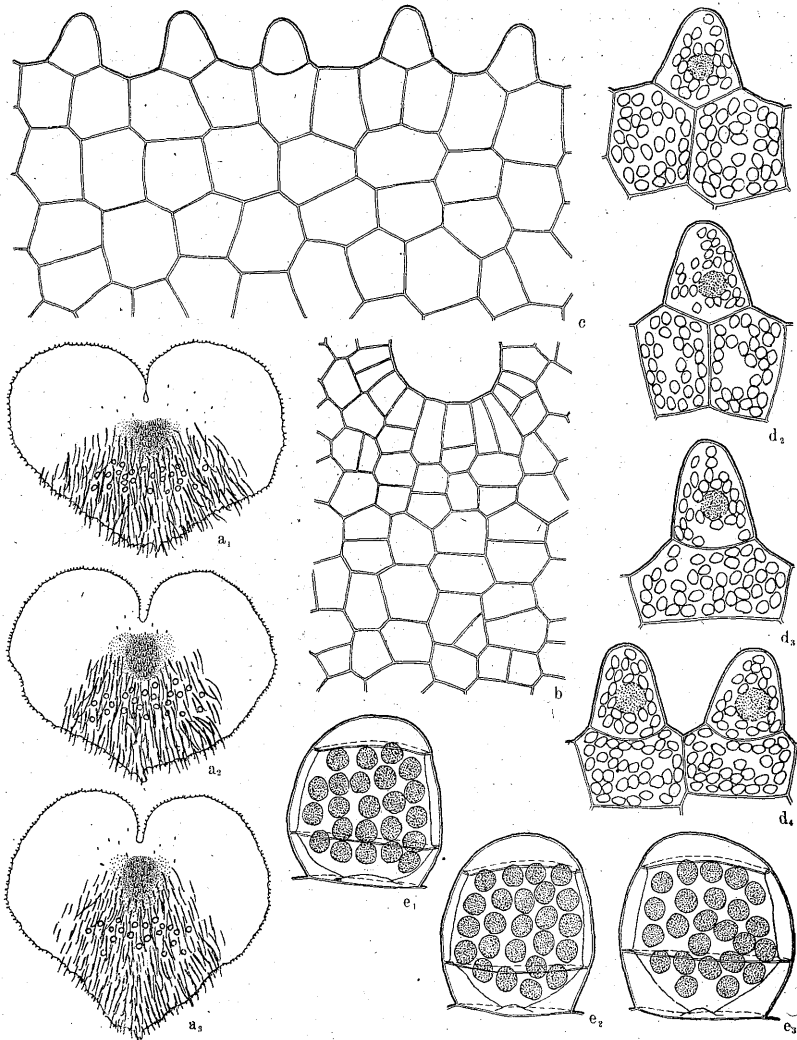


第 6 圖 ひのきしだノ原葉體

Prothallium of *Asplenium prolongatum* ( $\times 19$ ).

本種ノ原葉體ハ前記ノ諸種類ト比較スルニ 1) 頂部中央ハ比較的淺ク彎入シ。2) 翼縁ノ細胞ハ側方ニ突出スルコトナク縁ハ平滑デアコト、3) 假根ハ翼部ニマデ擴ツテ廣ク生ズルコト、3) 中褥ハ下面ノ比較的上方ヨリ發達シ、小形ニシテ顯著デナイコト、藏卵器ノ最下位ノ頸細胞ハ特ニ大形ニシテ頸部ノ座ヲナスコト等ノ諸點ニ於テ類似シテ居ルノデアガ、 1) 概形ハ横廣クナル傾向ガ弱イコト、 2) 翼縁及ビ生長點附近ノ兩面ニハ乳頭狀突起ヲ生ズルコト、 3) 假根ハ一般ニ無色透明ナルコト、 4) 中褥ハ頂部生長點ニマデ達セズ中途ニ終ツテ居ルコト、 5) 藏卵器ノ頸部ハ肥大シ上部ガ膨大シテ居ルコト、 6) 藏精





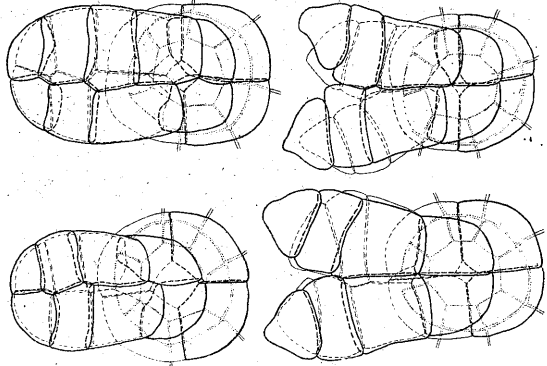
第 7 圖 ひのきしだ (*A. prolongatum*)

- a. general aspect (×6),
- b. growing point (×160),
- c. a part of margin (×160),
- d. papillae at margin (×240),
- e. antheridia (×240).

器ハ中褥ノ下端ヲ切ツテ側方ニ擴ツテ生ズルコト等ノ諸點ニヨツテ判然ト區別  
サレルノデアツテ前記ノ諸種類トハ全く原葉體ノ型ヲ異ニシ或ハ將來群ヲ異ニ

シテ取扱フベキモノデハナイカト思ハレル。

以上記述シタ 4 種類ハ何レモ今日考慮ノ餘地ナク眞正ノ *Asplenium* トシテ取扱ハレテ居ル所ノモノデアツテソノ原葉體ハ 1) 頂部中央ハ淺ク彎入スル傾向ガ強ク下部ハ一般ニ丸ク狭窄スルコト、2) 翼縁ノ細胞ハ側方ニ突出スルコトナク縁ハ平滑デアルコト、3) 假根ハ淡褐色ヲ呈スル傾向ガアルコト、4) 假根ハ中褥ノ下部以下ニ翼部ニマデ擴ツテ生ズルコト、5) 中褥ハ下面ノ比較的上部ヨリ發達シ、小形デソノ發達ハ顯著デナイコト、6) 藏卵器ノ頸部ハ多クハ瘦セテ細



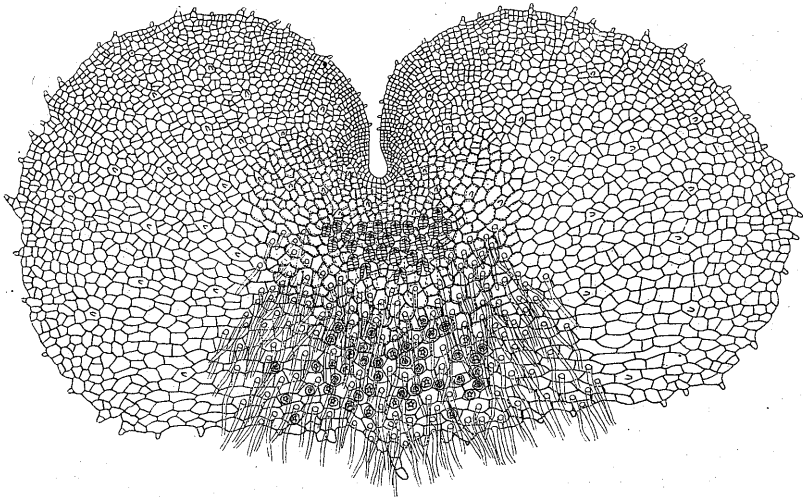
第 8 圖 ひのきしだノ藏卵器  
Archegonia of *A. prolongatum* (×180).

長クソノ最下位ノ頸細胞ハ特ニ大形ニシテ頸部ノ座ヲナスコト、7) 藏精器ハ中褥ノ下端以下ニ生ジ藏卵器群ニ接近スルコトアルモコレト混生スルコトガナイ等ノ諸點ニ於テ互ニ共通ノ特徴ヲ有スル。然シ各種類ハ種々ノ重要ナル特徴ニヨツテ夫々特別ノ形態ヲナシテ居リ、筆者ノ觀察セル 4 種類ニツイテ見テモ既ニ 3 型ガ區別サレルノデアツテ此等ヲ同列ニ論ズルコトハ不可能デアル。

5) *Tarachia caudata* PRESL, Epim. Bot. p. 79 (1849).

本種ハ廣ク熱帶地方ニ分布スル羊齒デアル。材料ハ馬來原産ニシテ現在小石川植物園ニ栽培中ノモノヲ使用シタ。

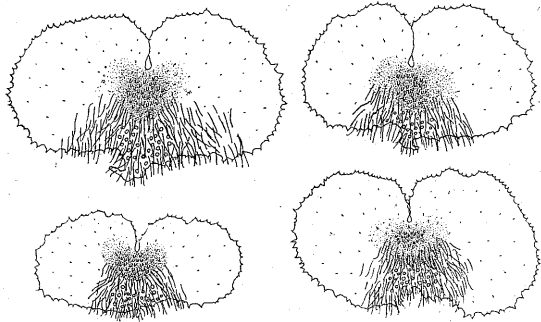
原葉體ハ横廣キ心臟形ニシテ、翼ハ側方乃至ハ側下方ニ張り、頂部中央ハ稍、深く狭ク急ニ彎入シ、兩翼片ノ内側邊ハ生長點ノ上方ニ於テ平行ナルカ或ハ相接近シテ居ル。下部ハ丸ク急ニ狭窄シテ原絲體ニ移行スルモ普通ハ底部ハ截形ヲナスカ或ハ腎臟形ヲナス。原絲體ハ 2-4 個ノ方形ノ細胞ヨリ成リ、基原細胞ハ圓柱狀ニ胞子外殻ヨリ突出スル。兩翼ハ微カニ蝶翼狀ニ斜上シ、翼縁ハ不整鋸齒狀ヲナス。翼細胞ハ不規則ナル等方多角形デ兩面ニ膨出シ、分裂列ハ不明瞭デアル。翼縁ノ細胞ハ等方形デ、側方ニ突出スルコトナク縁ハ平滑ニシテ、ソノ縁側ハ殆ンド平坦デアル。ソノ乳頭狀突起ヲ有スルモノハ特ニ著シク側方



第 9 圖 Prothallium of *Tarachia caudata* (×18).

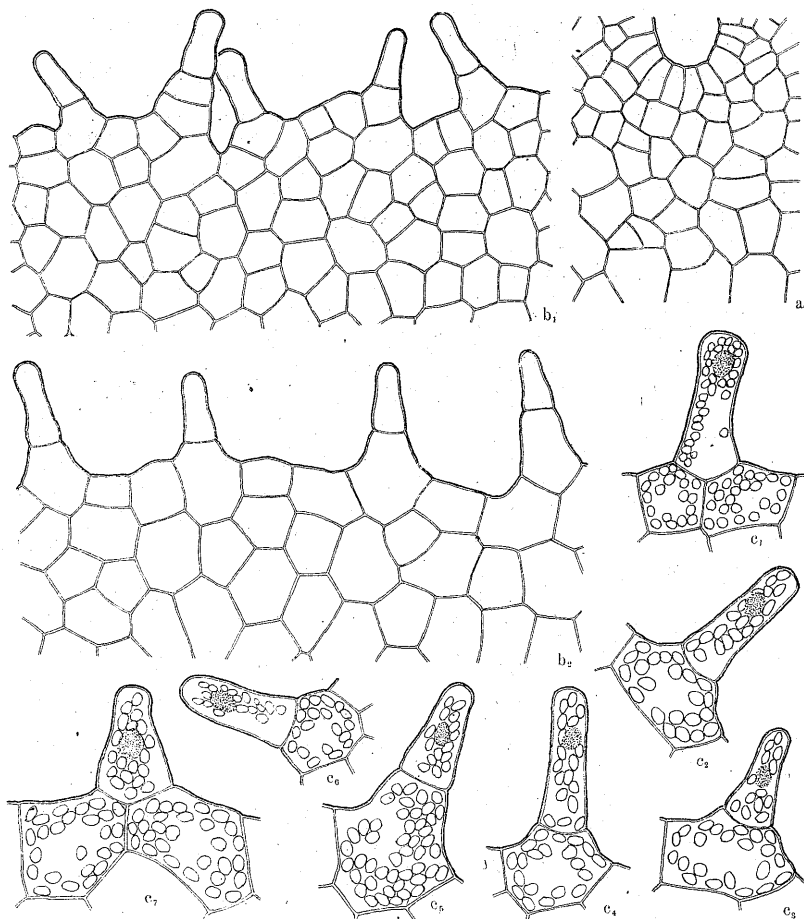
ニ突出スル。兩面及ビ翼縁ニハ乳頭狀突起ヲ散生スル。乳頭狀突起ハ一般ニ乳頭狀乃至ハ棍棒狀デ長サ 60-85 $\mu$ 、根元幅 30-50 $\mu$ 、帽ヲ分泌スルコトナク、内ニハ翼細胞ト 同形・同大ノ葉綠粒其他ノ細胞内容ヲ有シ性質上ノ分化ガナイ。假根ハ無色透明ナルカ或ハ微カニ淡褐色ヲ呈スルコトガアリ、基部ヨリ中褥ノ中部ニマデ互ツテ翼部ニマ

デ擴ツテ廣ク生ジ。上方ニ於テハ藏卵器群ト接スルモコレト混生スルコトガナイ。中褥ハ下面中途比較的上方ヨリ始マリ頂部生長點ニ達スル圓狀廣倒卵形又ハ腎臟形ノ比較的大形ノ褥ヲナシ、中央ヨリ漸次周方ニ薄クナリ輪廓ハ不明瞭デアリ、4-5



第 10 圖 General aspect of the prothallia of *T. caudata* (×4.5).

層ノ丸味アル等方形ノ細胞ヨリ成ル。藏卵器ハ中褥ノ中央部ニ比較的多數個群生シ、頸部ハ比較的大形ニシテ瘦セテ細長ク、4 系列ヲナス頸細胞ハ前列 6 個稀ニ 5 個、後列 4-5 個ノ細胞ヨリ成リ、ソノ最下位ノモノハ特ニ大形ニシテ頸部



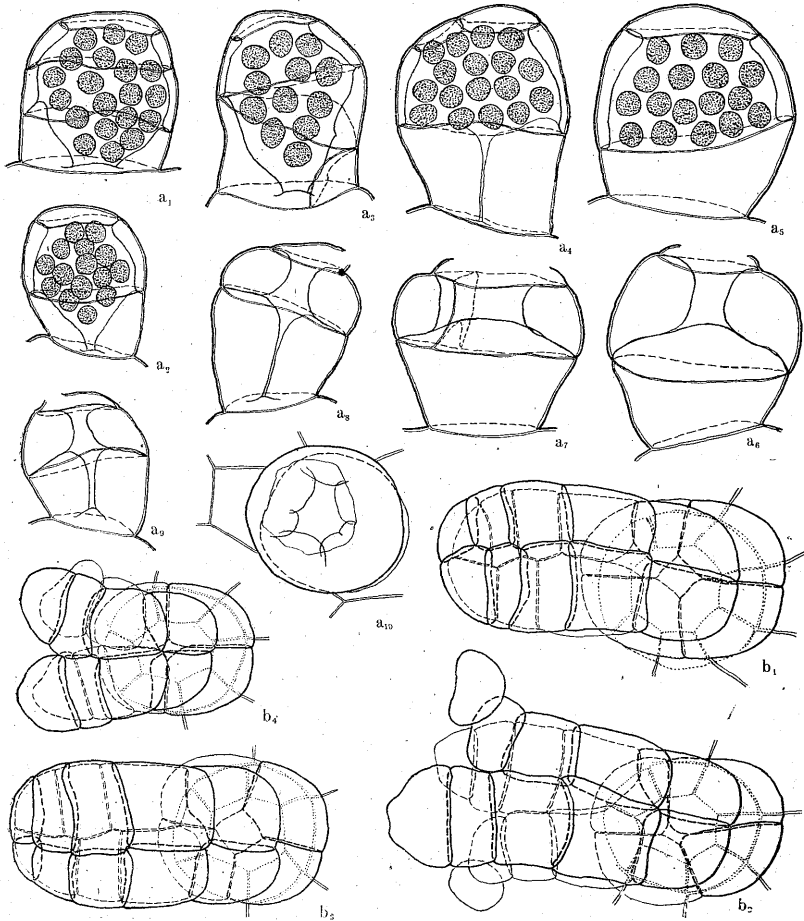
第 11 圖 *Tarachia caudata*

a. growing point ( $\times 160$ ), b. two parts of margin with papillae ( $\times 160$ ),  
c. papillae at margin ( $\times 240$ ).

ノ座ヲナス。藏精器ハ假根ニ伍シテ中褥ノ下端以下ニ生ジ、藏卵器群ヨリ下方ニ隔ル。形ハ大形且ツ不規則ニシテ上面觀ハ略シ圓形ナルモ側面觀ハ截圓形・截橢圓形・倒卵形・頭狀等アリ。直徑  $65-115\mu$  ヲ算ス。壁ハ蓋細胞・環細胞・底細胞ノ3個ヨリ成ルヲ規準形トシ、斯ルモノハ底細胞ハ環細胞ト等幅・等高ナルカ或ハコレヨリ低ク、ソノ上膜ハ摺鉢狀ニ陥没シテ底膜ニマデ達スルカ或ハ陥没セズシテ平坦ヲナス。然レドモ時ニハ第12圖  $a_1$  ノ如ク環細胞ハ更ニ横膜ニヨ

ツテ上下2細胞=分レ壁ハ4細胞ヨリナルモノアリ、又ハ第12圖 a<sub>7</sub> ノ如ク縦膜=ヨツテ分割サレ稀=2個ニナレルモノアリ、又蓋細胞モ時ニハ第12圖 a<sub>4</sub> ノ如ク縦膜或ハ斜膜=ヨツテ2個トナレルモノアリ、又底細胞モ第12圖 a<sub>3</sub> =於ケルガ如ク交互斜膜=ヨツテ2-3個ニナレルモノガアリ、斯ル異常型ノモノハ正常ノモノニ混ジテ極メテ高キ頻度ヲモツテ現レル。

本種ヲ含ム *Tarachia* PRESL ハ今日一部ノ學者ヲ除イテハ *Asplenium* トシテ



第12圖 Gametrangia of *T. caudata*.  
 a. antheridia (×240), b. archegonia (×240).

取扱ハレテ居ル現状ニアル。本種 1 種類ヲモツテ *Tarachia* 全體ニツイテ云々スルハ全く早計デハアルガ本種ニツイテ云フナラバ原葉體ハ 1) 翼縁ノ細胞ハ側方ニ突出スルコトナク縁ハ平滑デアコト、 2) 假根ハ中褥ノ下部以下ニ翼部ニマデ擴ツテ生ズルコト、 3) 中褥ハ下部ノ比較的上方ヨリ發達スル傾向ガアルコト、 4) 藏卵器ノ頸部ハ細長クナル傾向ガアリ又頸細胞ノ最下位ノモノハ特ニ大形ニシテ頸部ノ座ヲナスコト、 5) 藏精器ハ中褥ノ下端以下ニ生ジ藏卵器ト混生スルコトガナイ等ノ諸點ニ於テ前記ノ如キ *Asplenium* ノ諸種類ト共通デアル。然シソノ内ノ *Asplenium* ノ基準形デアルちやせんしだヤとらのをしだト比較スルニ 1) 翼細胞ノ分裂列ハ不明瞭デアコト、 2) 翼縁及ビ兩面ニハ乳頭狀突起ヲ散生スルコト、 3) 中褥ハ大形ニシテ顯著ニ發達シ腎臟形ヲナスコト、 4) 藏卵器ハ大體ニ於テ中褥ノ中央部ヲ中心トシテ生ズルコト、 5) 藏精器ノ形狀・構造・大サ等ニ於テ著シキ相異ヲ示シ同群トシテ取扱フコトハ不可デアル。ひのきしだハ *Asplenium* トシテハ前述ノ如ク特殊ナ存在デアアルガ翼縁及ビ生長點附近ニ乳頭狀突起ヲ有スルコト及ビ分裂列ハ不明瞭デアコト等ノ點ニ於テ本種ニ近ク、又藏卵器ノ分布ニ於テモ相通ズルモノデアル。然シ他ノ諸點ニ於テハちやせんしだヤとらのをしだト同様ソノ趣キヲ異ニシ同列ニ論ズルコトハ出來ナイ。以上カラ本種ヲ *Asplenium* ト別屬トシテ取扱フコトハ原葉體ノ上カラモ理由アルコトデアル。(此項未完)

## 雜 錄      Miscellaneous

### ○滿洲産「木通」ノ原植物採集記 (東 丈夫)

Jōbu HIGASHI: *Aristolochia manshuriensis* KOMAROV

日本産木通ハあけび *Akebia quinata* DECNE. デアリ支那産木通ハ *Clematis* 屬ノモノトサレテキルガ、滿洲産「木通」ノ原植物ハ 或人ハ *Dilleniaceae* ノ みやままたたび *Actinidia Kolomikta* MAXIMOWICZ デアラウト言ヒ又或人ハ まんしうまのすずぐさデアルト言ツテキル。

木通ハ滿洲デハ年 7 萬斤以上モ産シ、殊ニ金川・濛江・柳河方面、敦化・樺甸方面、通化・輯安・撫松方面ヨリ澤山産出シテキル爲是非コノ原植物採集ノ必要ナルヲ思ヒ、梅輯線ノ老嶺・石湖附近ニ自生シテキルダラウト想像シテ 8 月 26 日ニ奉天ヲ出發シタ。

奉天線ハ夢ノ間ニ過ギテ梅河口デ夜ガ明ケタ。8 月トハ言ヘ早朝ハ寒クテガタガタフルヘル程デアル。1 時間ノ待合セデ午前 6 時ニ梅河口ヲ出發。梅河口、柳家間ニハがま、をみなへし、ききやう、めはじき等ガ多く、柳家、駝腰嶺間ニハやつしろさう、さじおもだか、